

卒後2年目事例検討研修

～実践につながる事例検討～



9月21日(木)～22日(金)に、卒後2年目の研修者61名を対象として事例検討研修を実施しました。研修者1人1人の「心に残っている事例」や「忘れられない患者との場面」をもとに、患者理解を深め、現象の問題や課題の本質を明らかにし看護の方策を検討することを目標に、グループワークを行いました。患者像を深めるために情報を共有したり、体験したことやその時の感情を率直に表現することを通して、自分自身の看護観や信条に気づく機会となりました。



原口看護部長より、研修の導入として、旭川医科大学病院の目指す看護についてのお話がありました。



グループワーク

1人1人の事例について、研修者同士で話し合い、日々の看護を振り返りました。患者・家族の背景や気持ちを理解することの大切さと難しさを改めて感じ、患者・家族に寄り添うことを大切にする自分達の看護観を再確認できました。



全体会

グループの中で1事例を取り上げ、問題の本質や看護の方策をまとめて発表しました。互いの体験や学びを共有し、新たな視点から患者理解を深め、具体策を見出すことができていました。



事例検討を通して、患者の言動の背景にある思いや意味を考える、患者・家族とニーズや目標を共有するなど、具体的な行動を考えることができました。



次回のフレッシュナースNEWSでは、10月に行われた新卒者のオスキー研修の様子をお伝えします。新人教育に関して、何かご意見やご要望などありましたらお気軽にご連絡ください。

看護職キャリア支援 教育担当